

コミュニティ ふたつ

私と人とまちの間に

2018.SEP
118号

9

編集発行

公益財団法人 草津市コミュニティ事業団



もくじ CONTENTS

FEATURE

まちなか先生、みつけ。

- 2 緑のはらぺっこ食堂
- 4 動け! ぼくのレゴ®
- 6 げんこつおじさんのたこ焼き

- 7 まち暦 秋
- 8 ご近所まんが くさつがわ家とお隣さん ~これって、みんなの問題~
- 9 より道こ道 「山田 ~汽船が着いた港~」
- 10 事業団からのお知らせ
- 11 見つけてスッキリ! / 草津の匠
- 12 熊谷栄三郎の徒然草津 第30回 大夕焼けボイス

ころころ、はふはふ

「なあ、まだ?」「ちよい待ち」。クルクル丸くなっていくたこ焼きに、子どもたちの目もくぎづけ。「ごちそうさま、ありがとう」。子どもたちの言葉で、げんこつおじさん、この暑さもなんのその。

秋の日はつるべ落とし。井戸のつるべがするすると落ちていくように、あつという間に日が暮れる秋の夕暮。鳥は山へ帰り、ますます茜色が空に映えるとき、やがて虫の音色が聞こえます。懐かしいようなどこか寂しさも漂う黄昏時。さあ、お家に帰ろう。

2018.SEP
118号

9

緑のはらぺっこ食堂

アイドット
I.キャンパス 今村崇志さん(新堂町・24歳)

新しくなった常盤まちづくりセンターの一角。

「それではよろしくお願ひします」。ミーティングの輪が解け、みんなワクワクした表情で持ち場に散りました。常盤の子ども食堂「緑のはらぺっこ食堂」が始まります。

最初のまちなか先生は、食堂を運営する「I.キャンパス」の今村崇志さんです。



暑くて楽しかった夏休みも終わりました。子どもたちは早くも生活のリズムを取り戻し、学校で外で、と元気いっぱい。今回は、そんな子どもたちの学びを、そして未来を見つめる活動のいくつかをご紹介します。まちの中で見つけた「まちなか先生」たち。それはひよっとすると、明日のあなたの姿かもしれませぬ。

人生を変える出会い

開店2時間前、エプロン姿の女性たちは調理室に入りました。アイ・ドット・キャンパスのメンバーは子どもたちと一緒に、手書きのウェルカムボードを作ったり、受付や設営の準備です。この、アイ・ドット・キャンパス。20代中心の若手メンバーながら、チームワークも手際の良さもバツチリ。子どもたちとの接し方なんて、とても初めてには見えません。

「私は大学生のころ、常盤の学童保育でアルバイトをしていました。あのころのメンバーでアイ・ドット・キャンパスを創って、この活動を始めたんです。中にはそのまま学童保育の職員になった者もいますよ」と今村さん。なるほど、どうりでチームワークの良さもナットクです。

若い今村さんが子どもたち

に関わるようになったのは、ある人との出会いから。

「高校生のころ、部活の顧問の先生との出会いがありました。生徒一人ひとりと真正面から向き合ってくれる先生でした。僕はどちらかと言うと平凡で目立たないタイプ。でも、僕のどんな質問にも丁寧に答えてくれ、時には一緒に考えてくれました。そんな先生を見て、僕も子どもに関わりたと思うようになったんです。大学では教育学を専攻しました。」

子ども食堂

そのころ、始めたのが常盤での学童。初日のことは今でも覚えています。あまりの緊張で何も動けずにいた僕を、一人の女の子が「トランプしよう」と手を引く張ってくれたんです。助けました。その子は今、女子高生。今でもみんなで食事に行ったり、部活の傍らこの活動を手伝ってくれたりもします。」



大学を出て、念願だった子どもに関わる仕事に就いた今村さん。社会人としてがんばる傍ら、「常盤の子どもたちに何かお返しができるか」との思いが頭をもたげてきます。そんな時に知ったのが子ども食堂でした。

「子ども食堂というと、子どもの貧困や孤食に対する社会活動のように思っていました。そんなとき『滋賀の縁創造実践センター』の『遊べる学べる子ども食堂として地域ぐるみで子どもを大事にする垣根のない居場所づくり』という理念を知って共感しました。」

遊びから学ぶ

特に印象に残ったのは「遊べ





る学べる子ども食堂だった」と今村さんは振り返ります。「学校では、授業というカリキュラムに沿った学びがあります。一方でここでは子どもたちが、遊びの中から自ら学んでいく場になればと思っています。自分たちでやり方もルールも決める。ケン力になったら、自分たちでなんとか折り合いをつけ仲直りする。もし困っている子がいたら、その子も楽しめる方法を自分たちが考える。



性別や年齢、障がいの有無や得意不得意も全てを織り込んで、一緒に考え、話し合える場で遊びを通して学び、成長できる居場所をつくっていききたい。たとえば、鬼ごっこをしたい子は、ホワイトボードに『●時●分から▲で鬼ごっこをします。やりたい人あつまれ!』って書くとか。言いだしっぺは子どもでも誰でも構いません。

みんなでつくる

緑のはらぺっこ食堂が大切にしたいことは他にもあります。それは「みんなで作る食堂、人のつながりを感じる食堂」になること。食事を提供する側される側に分かれるのではなく、ご飯を作るのも遊びを考えるのも、子どもたちにはこうした色々な大人や友だちとのつながりの中から、私が顧問の先生に感じたような「人に憧れる気持ち」や、色々な人の考え方・価値観を認め合えるようになって欲しい。そしてそれは私をはじめ、関わってくれる大人一人ひとりにもそのまんまいえること。みんなですべて「緑のはらぺっこ食堂」を創っていきたいものです。

今日のメニューはカレーライストコロツケです。豚肉とコロツケは守山の肉屋さん、野菜とお米は近所の農家さんが提供してくれました。場所や設備はまちづくり協議会にお世話になっていますし、調理スタッフには民生委員さんや学童保育のスタッフ、保護者さんにもお手伝いいただいています。

食堂自体の運営だって、対話しながら自分たちの場を創ってこうと考えています。

ちなみに「アイ・ドットキャンバス」とは「私自身が絵を描いていく空間」という意味を込めているそう。ここに来る子どもたち二人ひとり、関わる大人一人ひとりが、自分の人生を描き、幸せな場所をつくれたら、とメンバーみんなで話し合った大切な名前だとか。

何より、こうして若い人たちが、まちの子どもや大人に関わりを持つようとしてくれる姿が頼もしく映ります。心が浮き立つカレーの香りが漂ってきました。子どもたちはもうしつかりはらぺっこな様子。「みんなですべて」って、なによりのごちそうですね。

さあみんな、お腹いっぱい召しあがれ。

今村崇志さん



Iキャンバス
i.canvaslove@gmail.com



FEATURE

動け! ぼくのレゴ®

草津05倶楽部 山口里美さん(野村・47歳)

子どものころ夢中で遊んだレゴブロック。自分で創ったクルマやロボットたちが思い通りに動いてくれたら…。そんなこと、考えたことはありませんか。プログラミングすることで、レゴが動きまします。レゴとプログラミング、そんなユニークな活動で子どもの育みを見つめる「草津05倶楽部」。代表の山口里美さんです。



今日は草津05倶楽部の活動日。活動と

とボソボソしと話し声だけの空間。どこか心地よい静けさです。

動くレゴブロック

夏休みのある週末。市立ま

ちづくりセンターの一室に数人の子どもたちの姿。下はまだ学校に上がっていない子から上は中学生まで、中には一緒に来たお母さんの姿もみえます。みんな好きな時間に来て、好きな時間に帰る。席だつてバラバラ。パソコンやタブレットを触ったり、ブロックを組み立てたりとそれぞれで没頭しています。作業の音

とおもちゃで創った車やロボットを、コンピュータのプログラミングを使って自在に動かすことで、子どもたちの論理的な思考や工夫する楽しさを育む草津05倶楽部。

「まだ軽そうだね。もっとガツチリ固めてみようか」「もっとパワーを上げてみてもいいんじゃない」。部屋に広げられたコースでブロックの車を走らせようとしている男の子に山口さんがア

「まだ軽そうだね。もっとガツチリ固めてみようか」「もっとパワーを上げてみてもいいんじゃない」。部屋に広げられたコースでブロックの車を走らせようと

ドバイスしていました。

デンマーク生まれのレゴブロック。誰もが知っているこのおもちゃで創った車やロボットを、コンピュータのプログラミングを使って自在に動かすことで、

子どもたちの論理的な思考や工夫する楽しさを育む草津05倶楽部。

「活動を始めて11年、これまでで200人以上の子どもたちが



▲イメージ

その動きに理屈あり

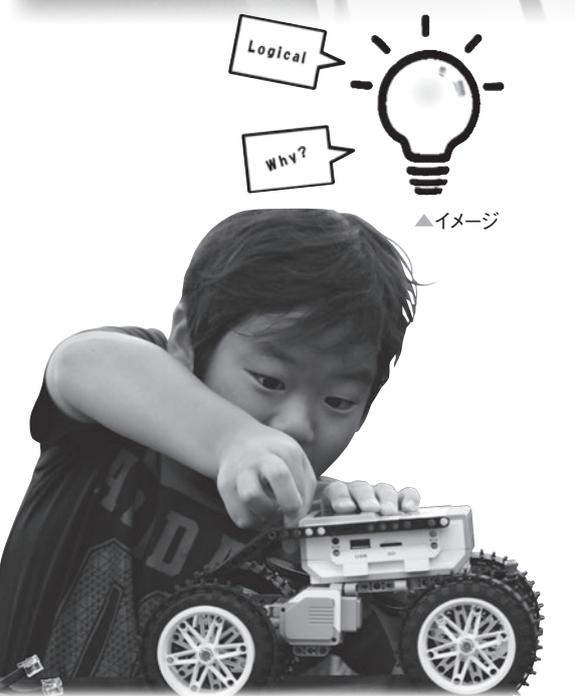
来てくれました。今日来ている子は、実は以前にお兄ちゃんについてきてた弟さんです。ここに来てモクモクと組み立てる子や、ブロックはもう卒業してプログラミングだけをしたい子など、子どもたちそれぞれの性格が出てきます」と山口さん。レゴブロックとプログラミングという、やはり男の子が多いようですが、そんなこの会の運営を女性がしているのも興味深いところです。

レゴブロックはともかく、プログラミングなんて言われると、ちよつと腰が引けそうです。「プログラミングってコンピュータにさせる作業を順番に書いていくことです。例えば運動会の

「活動を始めて11年、これまでで200人以上の子どもたちが

プログラミングなら、競技を順番に書き出してありますよね。人の流れや時間を考えてプログラミングをつくらないと現場は混乱してしまいます。実現したいことを論理的に考えないとうまくまわらない。プログラミングはそういう論理的な思考を身につけるためにびつたりの作業なんです。2020年度にはこのプログラミングが小学校でも必修化されることになったんですよ」。なるほど。

でもコンピュータ言語とか、やっぱり難しそう。「最近はずフトやアプリができて、難しい言語なんか知らなくても、遊び感覚でサクサクとできるようになっていきます。今の子どもたちは小さな時から、ゲームやスマ





ホに慣れていいるから、操作なら私よりずっと早いですね。」

熱中できる場を創る

苦戦しているさっきの男の子に山口さんはネットの画面を見せながら「賞をとったマシンは、坂を上がるときと下るときで重心の位置を変えているみたいだね」と次のアドバイス。すると男の子は何か思いついたように、車を分解し始めました。えっ、せつかつくつくったマシンなのに…。

「坂を上るって動作だけでも、色々な要素が絡むんです。今みたいにプログラミングだけでは解決できないことだってあります。ブロックでつくるマシン

の形状や重さなんかも関係してきます。それにどうせならカッコイイものを作りたいたいで、デザインだって凝りたくなりますよね。こうして子どもたちは、やってみる、工夫すること、繰り返し、目の前の困難を乗り越えようとしています」

子どものころから数学が大好きだった筋金入りのリケジョ（理系女子）の山口さんは言います。「子どもたちの好きなことって一人ひとり違います。スポーツが好きならスポ少に、音楽が好きなら吹奏楽に、ってね。こうしてレゴやプログラミングが好きなき子が熱中できる場を創りたくて活動を始めました。場所を創っても、私はここではあ

えて何も言いません。やらされるより自学自習のほうが、楽しいし身につきますから。思うように動かなくて困った時だけ私にSOSを求めにくるので、ちよつとヒントを出すぐらいです。」

気がつけば、男の子はもう新しいマシンを組み立てたようです。さっきより車高が高く、どしりしています。タイヤは大きく、そして二重にしたようです。モーターを回す時間はプログラミングで工夫しました。今度こそあの坂を上るはず。さあ、やってみよう！
ドキドキワクワクは続きます。

山口里美さん



匠の技
何をつくる
道具かな？



答えはP11

草津05倶楽部
市立まちづくりセンターにて
(毎月1回・土曜日 9:30~)
他にも草津市西渋川にて週末に活動

●連絡先●
✉ 93205club@gmail.com (山口里美)
HP <https://93205.jimdo.com/>



げんこつおじさんのたこ焼き

子どものたこ焼き屋 水野晃男さん(宮町・51歳)

木曜日。商店街の本陣にほど近い「出会いのひろば」に一台のワゴン車が停まります。手書きの看板には「たこ焼き 小学生10円 大人は買えません」の文字。

「ん?」なんとも気になるじゃありませんか。

か

かまう「構う」世話を焼いたり、相手
をしたりする

大辞泉

子どもたちをかまう

「こどものたこ焼き屋」さん。これが毎週木曜の午後3時から3時間だけ開店する子どもたちのための「たこ焼き移動販売」の屋号です。夏場なら50℃は越えそうな車内で、所狭しとたこ焼きを焼くのは、「げんこつおじさん」こと、水野晃男さん。「なぜ、げんこつおじさん?」それは後ほどのお楽しみ。

水野さんは現在51歳。普段は別の仕事をしながら、自分の休みを利用して、このたこ焼き屋さんを始めました。昨年のことです。でも、どうして「子どものため」なのか。そこには水野さんの、ある思い出があります。

水野さんが小学生のころ、帰道にはいつも両手で道を通せんぼする毛糸帽子のおじさんがいました。おじさん、「わしにジャンケンで勝ったら、ここを通してやるよ」。子どもたちはいつもこの「ジャンケンおじさん」と出会う。帰り道をドキドキしていたとか。「後で知ったんですが、この人

は近所に住む腕の良い大工さん。今でいう見守り活動だったのですね。学校からの信用も厚かったみたいです。おじさんは、毎日、子どもに関わりうとしてくれていたんです。これがおじさん流『子どものかまい方』だったんですね。おじさんに限らず、当時は豆腐屋さん、駄菓子屋さん、交番のおまわりさん……と、子どもに声をかけてくれる、いわゆる『かまう』さくも注意や目配りをしてくれる大人たちでした。

今の子どもの登下校の様子を見たとき、そんな『子どもをかまう』大人が少なくなってきたことに気づきました。そうだ、自分も何かで子どもたちをかまうてやろう、って思ったんです。自分には何ができるだろう、って。それ

思い立つたら吉日。車は仕事仲間に借りました。「ネギならいくらでも畑から持って行きな」とご近所の協力をいたいただき、燃料屋さんも格安でプロパンガスを貸してくれました。出勤でいつも前を通っていた「出会いのひろば」の所長さんに思いを伝えると、「一度やってみたら」と快く場所を提供してくれ、保健所の許可も取りました。「わずか2週間で開店にこぎつけられたのも、皆さんや家族の理解と協力があったから」と水野さん。

ちなみに、たこ焼きは7個で「小学生10円 中学生30円 高校生50円」。ずいぶんと安いお代にしたのも理由があります。

「僕は母子家庭で育ちました。子どもを母は仕事で忙しく、夏休みには毎日お小遣いを置いて

がたこ焼きでした。」

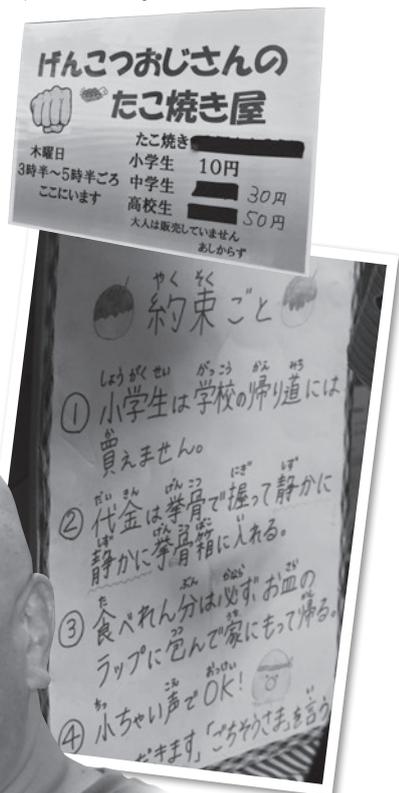
母のお小遣い

て行ってくれたんです。たしか200円。これでご飯とおやつを買うのですが、母は忙しいものだから時々置いていくのを忘れるんですよ。そんな日はお腹もすくし、ずいぶん寂しい思いもしました。でも一生懸命に働いてくれている母にそんなこと言えません。

そんな水野さんも大人になり、家庭をもちました。子育ても一段落したある日、テレビで「子ども食堂」を知り衝撃を受けました。独りでご飯を食へ、働いている親の帰りを待っている子どもたち。



イメージ▲



水野晃男さん



そんな子どもたちのために食を
囲んで子どもたちの居場所をつ
くる地域の大人たち。
「今の時代でもこんなことが
あるのか...」。自分の過去とも重
なりました。

け

げんこつ【拳骨】にぎりこぶし

げんこ

三省堂

げんこつで払う

こんな経験から、このたこ焼き
屋さんでは支払いにも工夫があ
ります。子どもたちは10円玉を
握りしめてワゴン車の横の箱の
中に入れます。中には布が敷いて
あつて、チャリンの音はしません。

「今日、お金を持ってない子は、
手だけを入れてもらいます。友
だちが食べていて、自分だけ食へ



られないなんてつらいですもん
ね。」

この様を「げんこつを入れても
らう」とある人が例えた日から、
水野さんは「げんこつおじさん」
になったのです。

最初は少なかった子どももの数
も、今では平均35〜40人、多い日
は50人を超えることもあるとか。
食べ終えた皿のナイロン袋を新
しいものに取り替えてから返却
するのは、子どもたちが作ったげ
んこつおじさんの手間を減らす
ためのルールです。

「ジャンケンおじさんの影響を
受けて私はげんこつおじさんにな
りました。子どもたちにも、こ
のたこ焼きがきっかけとなって、
将来『○○おじさん』『○○おばさ
ん』になって、次の子どもたちを



かまってももらえたら嬉しいです
ね。やるのは簡単、続けるのは大
変だけど、子どもたちが大きく
なってもげんこつおじさんを覚
えていてもらえるようがんばり
たい」と水野さん。

「タコだけは安く仕入れら
れなくて、できるだけ小さく
刻むのに肩が凝ります。子ども
たちには『日本一、タコの
小さなたこ焼き』って言って
ますよ」と笑う水野さん。

どっこい、子どもを思う心
は日本一の大きさです。

まち暦



ふれあいタウンのまち暦 秋 ~とある町会長さんの「いいね、町内会!」~

夏まつりも終わってホッとしたころ、町内会では運動会の準備が始まります。

学区主催なので町内会としては競技参加の人集めと当日のお弁当や参加賞、テントの手配などが中心となります。

まずは回覧板で参加者を募ります。でもねえ、なかなか書き入れても
られないのが正直なところ。それで各家庭にお願いに回る町内会もあると思います。あり
がたいことにうちの町内会は当日100人以上の人がきてくれます。回覧の時には書き入れ
てくれなくても、やっぱり皆、楽しみなのでしょうね。

だから当日、テントの前に種目名を書いた大きな紙を貼り出して、競技に出してくれる人
をその場で書き入れていきます。皆、イヤな顔せずに出してくれるから助かります。綱引きや
玉入れなら20〜30人はすぐ集まるし、70歳以上の人に参加できる種目も一工夫されてい
ます。なんといっても盛り上がるのは町内会対抗の年齢別リレー。どこの町内も、みんな
声を枯らして、わがまち応援です。

“高齢化”だとか“学区行事への町内会参加の負担”だとか、色々クリアしないとけな
い問題もありますが、町内会単独の行事だけでなく、学区の行事に「○○町内会」として
参加することで、「自分はこのまちの一員なんだな」って、かえって自分のまちを感じること
あるんですよ。

ふれあいタウン「まち暦 秋」

- 10月 学区運動会
- 11月 防犯パトロール・消火訓練・
一斉清掃
- 12月 年末夜警・もちつき大会
- 他 広報の配布・市役所との調整・
関係機関への届出
集会所や備品の管理
学区ふれあいまつりの準備・手伝い
など

*このコーナーは市内のとある町内会長さんの話をもとに独自に編集しています。登場する町内や催しの名などは
実際のものとは違います。また、すべての町内会・自治会にこの内容があてはまるものではありません。



くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～

かれこれ40年の「ふれあいタウン」。
どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り返される
今ドキご近所のちょっとこなれた毎日。
楽しくも少し考えてしまう。
もしかして…これって、みんなの問題かも。



あれもこれも

町内会長さんの心がけは素晴らしいのですが、これではいざという時に持ち出すのは難しそうです。日ごろの備えについて市役所に聞いてみました。例えば非常持出品。食べ物なら缶詰などをまずは思い浮かべますが、カップ麺など日常的に食べて、買い足しながら繰り返し非常食として備える「ローリングストック」だと軽くて無理なく備えることができます。また、通帳やハンコなどの貴重品を非常持出品に入れておく人もいます。これでは日常生活が不便ですね。よく勘違いされることですが、「非常持出品」とはあくまで命をつなぐためのもの。「あれもこれも」でなく、「あれかこれか」の視点が大切です。非常持出品と貴重品、いざという時にそれぞれ持ち出すことができるようにしておきます。

市役所の職員さんが最後に言ってくれたこと。「こんな場合にはどうする?」ということ、家庭で、隣近所や地域で、話し合ってくれることがなにより大切です。せっかく訓練に参加したのに、家に帰ったら「そのまま」って話もよく耳にします。参加したことをきっかけに、その時知ったことや、感じた素朴な疑問・不安を身近な人同士で話し合ってみることこそ、防災では大切なことです。

地震・豪雨などによる水害や土砂崩れ…。防ぎようがなく、またいつ起こるかわからない自然災害。「いざ」というとき、住民同士の助け合い・支え合いが最初の命綱となります。命をつなぎ、被害を最小限に抑えるために、まずは「自分や家族の命を自らが守る」そして「顔の見え合う隣近所で助け合う」といった自助や共助による備えを何度も見直し、それらが活かされるよう日ごろから人と人とのつながりを大切にしておきたいものです。これこそが地域のコミュニティの最大の役割と言っても過言ではありません。

これってやっぱり、みんなの問題。



さく・com-com / え・まんじゅう

読売新聞

街の安心、安全、教育、環境を応援していきます。

草津五店会 TEL 077-568-2146

SUMAI

スマイ印刷は、自然環境を守る地球に優しい製品づくり「エコ印刷」に取り組んでいます。

株式会社スマイ印刷 sumaiprint.com
 本社:520-3014 滋賀県栗東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890
 東京オフィス:103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525
 甲賀水口ファクトリーPF1:528-0068 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045

より道 こ道

「いつもの道、から
一歩それてみる。
大人にこそ寄り道の
時間が必要だ。」

第14回・汽船が着いた港〜山田港跡〜

石田はま子

湖上交通が重要な交通手段の二つだった時代、山田港には紺屋関(大津)から多くの人が汽船で着きました。「山田通い」といわれ、明治5年に山田の杉江善右衛門が開いた航路は、昭和43年まで続きました。

立木神社(草津4丁目)から琵琶湖へとまっすぐ伸びる道は「山田道」と呼ばれました。山田道が浜街道と出会う「山田

町」の信号からさらに琵琶湖方面へ進むと、渡航安全の神様「渡海神社」があります。寄り添うように流れる小さな山守川の川沿いには、瀬田の料亭「三日月楼」を移築したかつての船宿や、膳所城から移された大きな門を構える家も見ることが出来ます。そこから徒歩で10分弱、山寺川が広くなりました。ここが「山田港跡」。

往時は今より川幅も広く、こは船溜まりとして琵琶湖から着いた船が方向転換をした場所でした。当時の写真

からはここに汽船が着いた時の港の賑わいがうかがい知れます。その後、琵琶湖の水位が低下し汽船が入る

ことができなくなったので、若干、琵琶湖寄りへと船着き場は移されました。鉄道の開通後も草津駅〜山

田間には馬車が走っていたそうです。山田港から馬車で草津駅に行き鉄道に乗った人も多かったのでしょうか。船、馬車、鉄道：なんとも素敵です。

大津出身の私には、昭和30年代まで草津から船で畑や田んぼの肥やしにする、し尿を回収に來られ、お礼に野菜をもらっていた記憶があります。また、名物「山田大根」を田船で

大津へ売りに行ったり、比叡おろしが吹く時は船が転覆しないよう平行でなく垂直に進めたなんて、琵琶湖での交通が暮らしに近かったことを思わせる話も聞きました。

港ならではの賑わいも今は昔、杉江善右衛門の没後50年に建立された記念碑だけが静かに今を見守ります。



ひとりで悩まないで！まずはお電話を！
くらしサポートセンターしが草津がお手伝いします



くらしサポートセンターしが草津
くらし何でも相談
TEL:077-564-5512

住所：草津市大路1丁目1-1 TEL:932 4F 4 0 6

センターへの相談は無料です。

- くらしサポートセンターしが TEL: 077-522-4600
- くらしサポートセンターしが大津 TEL: 077-572-7720
- くらしサポートセンターしが彦根 TEL: 0749-27-3500
- くらしサポートセンターしが近江八幡 TEL: 0748-37-5522



株式会社 三井田商事

JR南草津駅前に2012年に移転しましておかげ様で6年が経過しました。この度、4月1日付で南草津2丁目に新社屋を構えることができました。これも一重に地域の皆様に支えられて事業展開できた結果だと考えております。

今後とも日々精進して皆様から愛される企業として努めて参ります。弊社は京都府下及び滋賀県下でOA機器を販売し、自社でメンテナンスをしております。又、水の宅配事業も展開しております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津2丁目7-16
TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

ひとキラ* まち活動助成

あなたの一步、応援宣言。

自分にできることで、まちや誰かの役に立ちたい。
そんな“あなたの想い”に助成します。

募集 10月1日(月)~11月15日(木) 必着

助成 平成31年4月から2年間
(ただし2年目は審査で継続が認められた場合のみ)

- 立ち上げ 3団体 上限30万円(1年目10万円 2年目20万円)
- 連携・協力 1団体 上限50万円(2年目20万円 2年目30万円)

公開ヒアリング 12月8日(土) 9:30~
市立まちづくりセンター ふらっとサロン
約5分間の提案者の発表。ぜひ熱い思いを見に来てください。

パワフル交流・市民の日

まちづくり活動に取り組む仲間が交流する「パワフル交流・市民の日」。パネル展示・体験コーナー・ステージなど、日ごろの活動を発表します。まちづくりに関心をお持ちの方、気軽にお越しください。



11月10日(土) 10:00~15:00
市立まちづくりセンター

問合せ

(公財)草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課
草津市西大路町9番6号
☎ 565-0477 ☎ 562-9340
HP <http://kusatsu-spp.net>

クレア・アミカ 秋の自主公演

10/7

Jazz Festival in CREA

10月7日(日) 13:30~ (ウェルカム演奏 11:30~)
草津クレアホール

出演 立命館大学JAZZ CLUB 他
入場料 500円



11/11

草津市民 音楽祭

11月11日(日) 12:30~
草津クレアホール
入場料 無料



11/24

Little OZ
草津歌劇団オリジナルミュージカル



11/25

リトル☆オズ

11月24日(土)・25日(日) 11:00~ 15:00~ 各2回公演
草津クレアホール
入場料 前売 1,000円 当日 1,500円

問合せ 上記4公演
草津アートセンター(草津クレアホール内) ☎ 561-6100

10/8

Amica Weekend Concert アミカウィークエンドコンサート

打楽器の魅力 中谷満と 打楽器アンサンブル 「シュレーゲル」

10月8日(月・祝) 14:00~ 草津アミカホール
出演 中谷満 宮本受子 後藤ゆり子
中村めぐみ 久保菜々恵 深田瑞穂

プログラム

- ・カルメン幻想曲
- ・マリンバ・スピリチュアル
- ・打響聲應 -6人の打楽器奏者のための-
- ・Tage des Südwind ほか

入場料
前売 1,000円
当日 1,500円

前回の答え たくさんのご応募ありがとうございました。



※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用し、それ以外の目的で個人情報を使用することはありません。

見つけて ズッキリ!



読書の秋・スポーツの秋・食欲の秋…と秋は楽しみがいっぱい。地域でのミニコンサートに耳を傾けたり、ホールでダイナミックな演奏を味わう音楽の秋でもあります。草津クリアホール・アマカホールでは右頁の公演をはじめ、ロビーコンサートなども開催されます。ぜひ生演奏で音楽の秋をご堪能あれ。

下のイラストには上のイラストとちがう部分が5か所あります。ちがう部分を答えてね。



イラスト：大村恵(編集ボランティア)

応募方法

ハガキに①答え②氏名・年齢・郵便番号・住所・電話番号
③今号の感想を添えて下記まで。
FAX、メールでのご応募もお待ちしております。

必切 9月30日(日) 当日消印有効

宛先 〒525-0037 草津市西大路町9番6号
(公財)草津市コミュニティ事業団
「コミュニティくさつ9月号」係
☐ com-com@mx.biwa.ne.jp ☎ 562-9340

プレゼント

応募いただいた中から草津歌劇団オリジナルミュージカル「リトルオズ」公演チケットを5名様にプレゼント。
(対象となる公演日・時間は主催者の指定となります)

草津の匠

第2回

船大工 **畑源さん** 下物町・51歳



写真：大條紘史(編集ボランティア)



多くの船が人や魚を乗せて行き交う姿が琵琶湖の一つの光景だった時代に少年期を過ごした彼は、父の業と技を継ぎ、船大工となりました。時は流れ、舟材に優れているという樹齢100年のマキは山から出てこなくなり、船材の主流も木からFRP*へと変わりました。それでも、彼が手がけた木造船は今も倉敷や近江八幡の水郷めぐりで人々に風情を届けています。

「船づくりの材料も道具も容易に手に入らない状態。人には絶滅危惧職と言っています。」
おどけていう彼の日焼けした笑顔の向こうに、日本一の湖の船大工としての誇りが見えました。

*FRP…繊維強化プラスチック

熊谷栄三郎の 徒然草津 つれづれくさつ

第30回

大夕焼け

熊谷 栄三郎



暑かった今夏。その七月二十五日夕刻のこと。こう言うだけで、なんの話かもう気づいた人があるかもしれない。

午後七時二十分。草津駅近くのお食事処でイッパイやつて店を辞し、ふと空を見上げて、文字通り仰天した。「なんじゃこりゃ」と声が出た。見える限り、空の端から端まで、あまりに広大な、どぎつい夕焼けだった。

渦巻く雲のすべてが赤や紫、黄、青などに濃く、薄く彩られていた。そのことごとくが、みるみる形や色を変えていく。残念ながら西空は駅にさえぎられて見えないが、きつと比叡山の向こう、京都の方までこの恐るべき空が広がっているだろうと推測された。

いや、空だけでなく路上や建物も奇妙な明るさに映えていた。なんか大変なことが起きる前兆ではないか、という不安に自分が駆られて、いることにも気がついた。

その時、あつと思ひ出した。「大夕焼け」という言葉。三日前の新聞の俳句欄に「すこい夕焼けを意味する夏の季語」と紹介されて

いた。初めて知る魅力的な言葉だった。

「そうや、これが大夕焼けなんや。大夕焼け、大夕焼け」。何度もつぶやいた。

すると前方の路上で、高校生らしい男子一人連れがスマホを空に向けて夢中で写真を撮っているの気がついた。「何を写しているの」と問い終わるまでに「夕焼け、ものすこいですから」と声をそろえて答えてくれた。

「これな、大夕焼けつて言うんや」と物知り顔で教えた。「え、大夕焼け？言葉まであるのん」。二人がすこく感動しているのが分かった。当方、それで得意になった。次。そはの百貨店前から駅一階へ上がる階段でも若い女性がカメラを向けていた。で、例の言葉を教えて感動させようよと「あのね、あのね」と叫んで駆け上がった。

女性はスカートを翻し駅へ逃げた。私、不審者が酔っぱらいに間違われたみたいだ。

以上、大夕焼けの下で繰り広げた大失敗の話です。大うそではありません。

7月25日に撮影：橋詰辰夫(編集ボランティア)

読者の声

たくさんのご意見ありがとうございます。

6/15号「Myチャレ まちチャレ」に寄せられた感想から

- 定年後も学び続け、人・地域の役に立つ方々の紹介に感動しました。素敵なお3人の活躍を見て、まず自分のできることを身近な町内に役立てていこうと思いました。
- 40歳になり、老後を見据える上で、趣味や前職を活かしたボランティアなど、生きがい探しに大変参考になります。
- 矢橋に刀鍛冶がおられる記事に驚きました。刀を作るのに琵琶湖の水・草津の土にこだわっておられることがすばらしいと思います。草津の匠の特集、今後も期待しています。
- 「草津の匠」コーナーの刀鍛冶師・田中さん。草津にもこのような方がおられるのですね。まだまだお若く、これからも日本の文化を守ってってください。
- 「伝統の美と笑顔を写そう」の花岡さんの言葉に力強さと優しさを感じました。私も子どもにそんな気持ちで接することができたらと思っています。
- 熊谷栄三郎さんの「徒然草津」を毎回楽しみにしています。ほっこりとクスクスと笑えるお話にウンウンとうなずいています。
- 「より道二道」のりょうぶの道。草津に住みながら、こんなにいい所があるなんて知らなかった。一度行ってみたい。

「コミュニティくさつ」は、みんなで作るまちづくり情報誌です！

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえらる市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議(3か月に1回)で意見を出してくれる人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身のサークルや団体メンバーに本誌を配布してくれる人



● 申込み・問合せ ●
(公財)草津市コミュニティ事業団
コミュニティくさつ編集部(まちづくり振興課内)

ポイント

施設を利用するみんなの声と笑顔をお届けします。

ゴハンのおともに

ロクハ公園

クレアホール

まちセン

ロクハ荘

アミカホール



「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費縮減などで得る独自の収益金のほか草津市からの補助、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。

